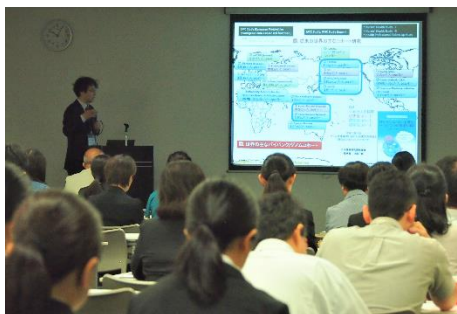


「第7回 日本栄養改善学会 東海支部会学術総会」の開催報告

2018年6月10日（日）、愛知県産業労働センターウインクあいちにて、静岡県立大学 食品栄養科学部（大会長：栗木清典）は、第7回日本栄養改善学会 東海支部会 学術総会を開催しました。

「食によるオーダーメイドの予防と医療を目指した基盤づくり」をテーマに、日本栄養改善学会の会員の皆様方、ご支援ご協力をいただいた栄養士会、企業・団体等をはじめ多くの方のご尽力により、お陰様をもちまして盛会裡に終えることができました。



会長講演（写真：左）では、世界のバイオバンク事業とゲノム疫学研究の紹介後、わが国における食によるオーダーメイドの予防と医療の重要性と現状について、そして、将来に向けた若手の育成など基盤づくりについてお話ししました。

特別講演では、食による「健康寿命の延伸」を目指すため、静岡県健康福祉部 理事（健康経営推進担当）の土屋厚子氏に「健康長寿日本一の挑戦 ～静岡県での取り組み～」を、市民公開講座では、「ゲノム医療の推進」するにあたり、愛知県がんセンター名誉研究所長（三重大学医学部 公衆衛生・産業医学客員教授、三杉クリニック院長）の田島和雄氏に「オーダーメイド予防医療を目指す食生活習慣 ～その光と影～」を講演いただきました（写真：右）。



人間集団と個々人の両方の「食と健康」の専門家である栄養士・管理栄養士にとって、本講演は、実践活動と研究を通じた科学的エビデンスの蓄積、保健・医療・福祉等での実践応用、若手の育成について意見交換できる基盤（契機）になったと信じております。私ども中堅に渡していただいた先輩・大先輩の『バトンと襷』を若手にしっかりと託します。ゲノム医療は、がん治療だけでなく、多くの生活習慣病において、食事療法、栄養・保健指導による予防に適用されるでしょう。将来、この基盤形成が役立ったと思っていただけるように、教育と研究に邁進する気持ちを新たにしました。



今学術総会では、学生会員に学生実行委員として企画・運営の一部を担ってもらいました（写真：左）。長時間の緊張状態により精神的にも身体的にも疲弊しておりましたが、専門家になるという意識の向上と責任感の醸成を図ることができたと思います。会員の皆様、ご支援いただいた多くの方々と実行委員の一人一人に深謝いたします。

食品栄養科学部 教授 栗木清典